



北海道

水から学び、みずから考える私たちのまち

基にしたモデル的なプログラム

さまざまな視点から水について考えよう ～水の総合学習プログラム～

作成団体

教育開発研究会

地域プログラム化メンバー

北海道ブロック 平成26年度持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育推進委員会

実証協力校等

札幌市立清田小学校

SDGsの要素



ESDの要素



能力／態度



● プログラムの概要

北海道や地球上の水資源の利用状況などを踏まえ、産業や歴史などを通じて地域の水資源について学ぶ。さらに体験や対話などを通じて、私たちの生活や産業には水資源が不可欠であることや、使うことができる水は有限で、世界的には希少であることに気づく。

次に地域の水環境を支える様々な人の取り組みや思いを聞き、自然環境が持つ機能を調べることで、自分たちが住んでいる地域の生活や産業と水の関わりを再確認し、学んだことを協力してまとめる。

最後に、自分たちが住んでいる地域の将来の水環境をみつめ、できることを計画し、小学校の他の学年や地域の関係者に対して発信する活動を行う。

● プログラムの目標

1. 地域の水資源の保全に取り組むために、児童が、北海道は水と関わりの深い地域であることを知る。
2. 水についてさまざまな観点から理解を進め、関わり方を見直し、自分たちでこれから取り組むべきことを考え、計画する能力・態度の育成を目指す。



森林の水涵養機能について学ぶ



私たちが使える水の希少性について体感



学んだことをまとめ、発表

● 参加者の声

- 飲料メーカーがあるくらい、この地域が水に恵まれていることが分かった。
- 「緑のダム」が身近にあることに驚いた。森林と土を守ることが大切だと思った。
- 温暖化防止も水を守ることにつながることに気づいた。

● プログラムの流れ

1・2時間目	地域と水の関わりについて情報を共有しよう
3時間目	私たちが「使う」水について考えよう
4～7時間目	水とのつきあい方を考えよう
8～10時間目	取り組んだことや考えたことをまとめよう
11・12時間目	まとめたことを発表しよう